

「ロープアート」の教材化の試み —教職演習・総合演習・保育内容(健康)の授業を通して—

竹内 暢子

An Experiment on "Rope Art" :
Integrated and Nursery Health Classes

Nobuko TAKEUCHI

平成19年度から保育内容(健康)の授業を担当することになり、授業内容にロープアートを採り入れることにした。「ロープアート」の名称は、10年ほど前に竹内が命名したものである。平成18年までの期間は、教職演習や総合演習時に1, 2時間経験させた限り、授業内容に本格的に組み入れたのは今年度が初めてである。

「ロープアート」とは、新体操競技用のカラーロープを使って花や動物などを描いた作品のことである。ロープアートの教材化の発端は、30数年前の夏季研修会で、故遠山喜一郎教授が単色のロープで花を描かせたことにあるが、その後教育の現場で普及することはなく、授業に採り入れている所は本学のみではないかと推察される。

本研究は、授業実践を通して、「ロープアート」が想像力や発想力を高めるのに効果的な教材であることを明らかにしたものである。

I はじめに

昭和が平成に変わる頃から新体操用のカラーロープが徐々に普及し始め、体育の授業で使う縄跳び用のロープもカラーにし、身長に合わせて使えるよう各色とも4段階の長さのものを準備するようにした。その頃から、縄跳びや身体運動に合わせてのロープ操作だけでなく、絵を描かせて見たいと考えるようになった。そこで研究費で数本ずつ購入することにし、10年後の現在、150本程度集まっている。当初は数種類の色しか無かったが、今では素材も多様になり、模様入りを合わせると約30種類に上る。素材はポリエステル・麻・ナイロン・混紡と4種類で、値段は1,000円台から6,000円台である。使用しているのは3,000円台の麻製であるが、集めるまでに長期間を要したのは、使い勝手のよさを考慮したのと、当初色の種類が最も豊富だったのが麻で高額になるため一度に購入出来なかったことが理由である。現在揃っている色はホワイト・パールピンク・パープル・ブラック・イエロー・レッド・ラズベリー・ターコイズブルー・オレンジ・マスカットグリーン・グリーン・ピンクの12色である。グリーンとピンクは廃盤になっており、貴重な2色である。長さは3メートル

の物を使用している。

ロープアートを始めた頃は体育館のフロアーに描かせていたが、フロアーの色や各種目のコートのラインが重なり、作品が鮮明に見えなかった。そこで平成14年から白いシート2枚分をキャンバスに見立てて描かせたところ、描いた作品が鮮明に見えるようになった。

Ⅱ 教材化の方法

ロープアートを始めた頃は、教職演習や総合演習の少人数の時に1,2時間を使って実施し、ロープの本数もまだ少なかったため、花・動物・果物など単体の物を描かせていただけであった。少しずつ集めたロープが、ある程度まとまった本数になった時点で、段階的指導を行うようにした。

保育内容(健康)の授業では、一クラスを4グループに分け(1グループ8～9名)シート2枚・ロープ約35本ずつを用意し、4時間でロープアートを実施した。色によって本数が違うので均等に配布するよう留意した。

4時間の中では、次のようなステップを踏んだ。第1段階から第3段階では、複数の課題を与え、描く回数や種類を増やし、課題に対してすぐに反応出来るように多くの経験を積ませた。第4段階では動物園や遊園地等の情景をイメージさせ、シート2枚分の大きさにその情景を表現させた。実施するに当たっては、以下の点に注意するよう促した。

- 1 グループ全員で意見を出し合い、協力して行う。
- 2 シーツはピンと張った状態を保ち、しわが寄ったら気がついた人が直す。
- 3 2枚のシートに隙間が出来ないように注意する。
- 4 シーツに乗る時には、シューズを脱いで上がる。
- 5 第4段階では全体のバランスを考えながら描く。

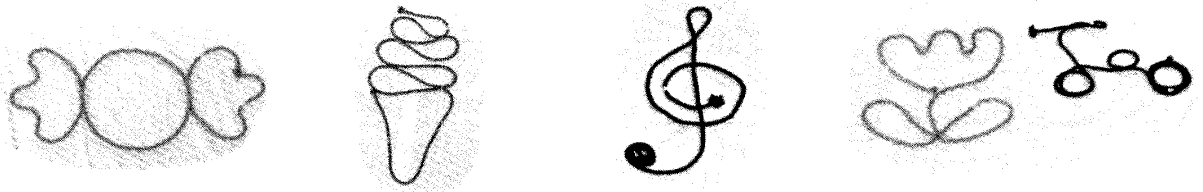
更に課題に沿ってさまざまな絵を描いていく際、次のことに配慮しながら行うよう指示した。

- ・色の種類がクレヨンや色鉛筆に比べて少ないため、「これは何色(例えば、りんごは赤色など)」と限定せず、描いた形で何かを判断できるようにする。
- ・細かいところまで忠実に表現しようとするのと却って描きづらくなるので、なるべく削ぎ落としシンプルな形にする。

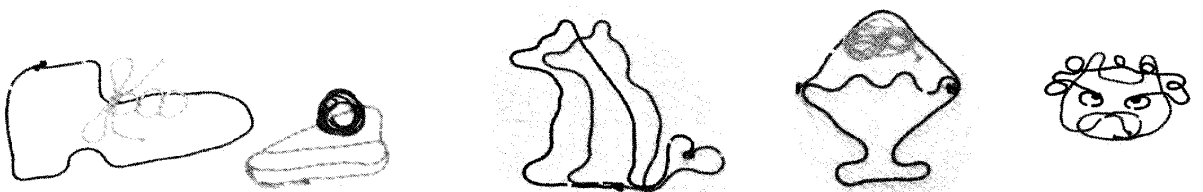
以上の指示・助言の下に、学生が描いた第1段階から第4段階までのロープアートの例は以下のとおりである。

「ロープアート」の教材化の試み ―教職演習・総合演習・保育内容（健康）の授業を通して―

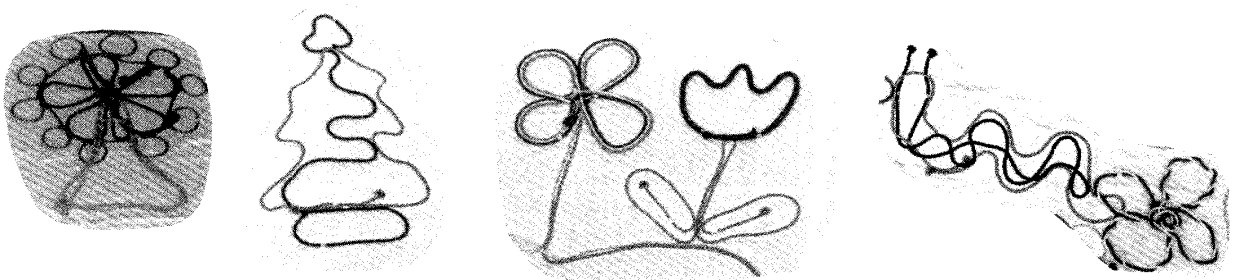
〔第1段階〕 ロープ1本を使って与えられた課題の絵を数種類描く。例として下図のような物が挙げられる。



〔第2段階〕 ロープ2本を使って与えられた課題の絵を数種類描く。例として下図のような物が挙げられる。

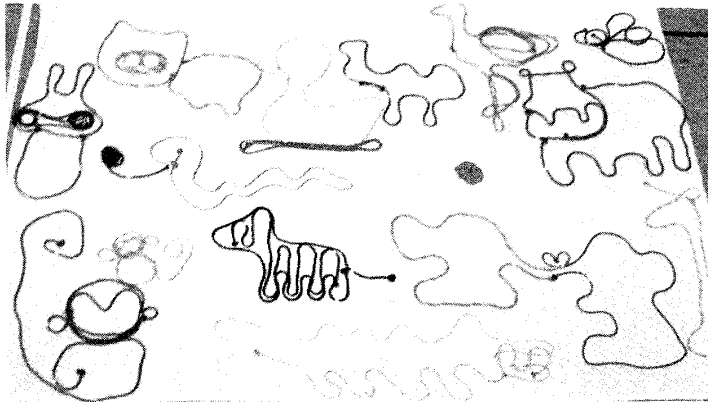


〔第3段階〕 本数を定めないでいろいろな絵を描く。例として下図のような物が挙げられる。



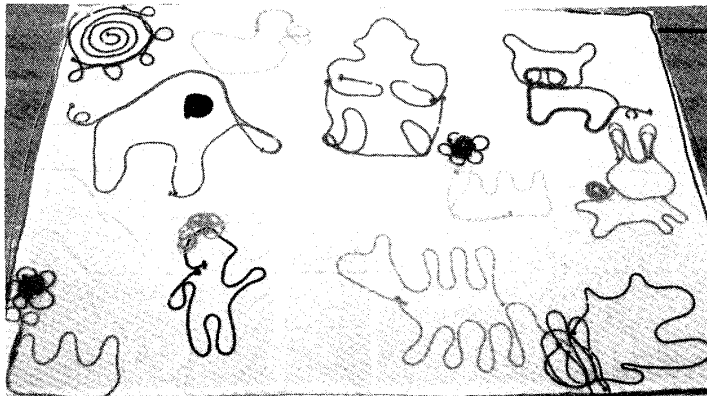
〔第4段階〕 与えられたテーマで一枚の絵をグループで完成させる。 例：動物園・遊園地など。下記は、その完成作品である。

第1のテーマ：動物園



1-ア

思いついた動物のみを個人個人で描いた作品である。ラクダ、鳥、ワニなどはイメージできないことは無いが、もう少し正確な表現が欲しい。カバやフラミンゴはそれらしさが伝わってくる。

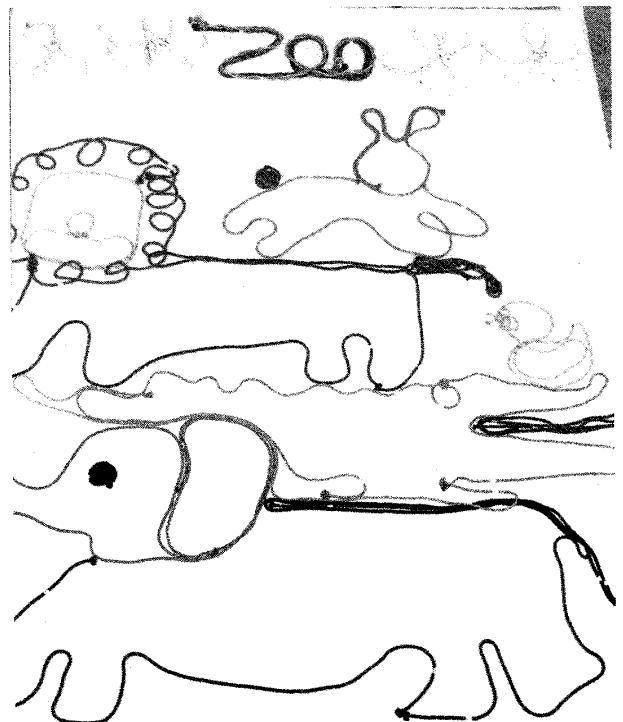


1-イ

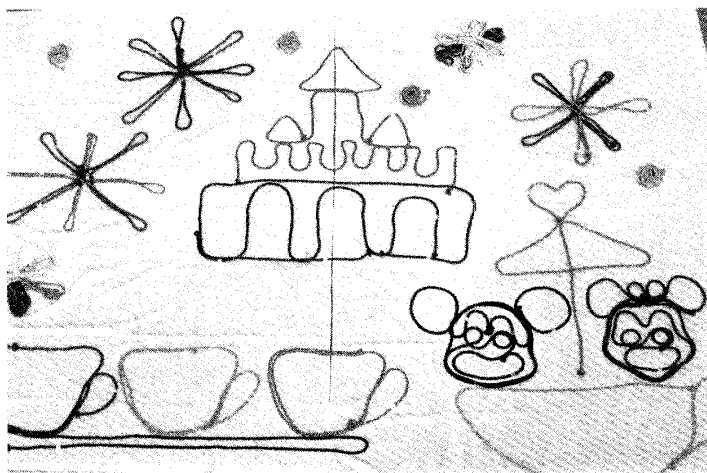
人間や花が描かれてはいるが、動物園としてのバランスが欲しい。カバはシンプルなラインだが、それらしい表現である。

1-ウ

初めて出会ったダイナミックな構図で描かれた動物たちである。表情がとても良い。特にワニが素晴らしい。

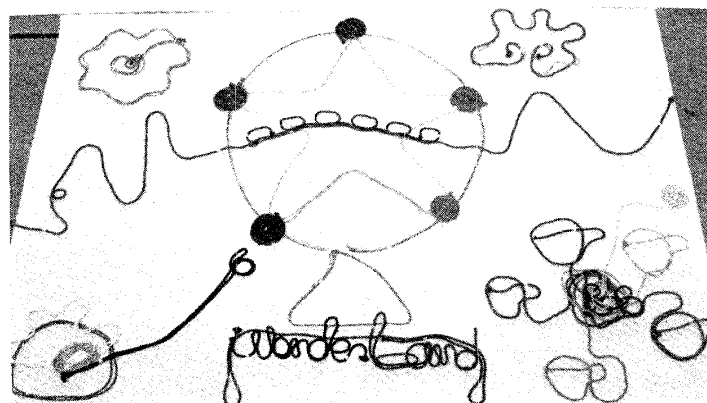


第2のテーマ：遊園地



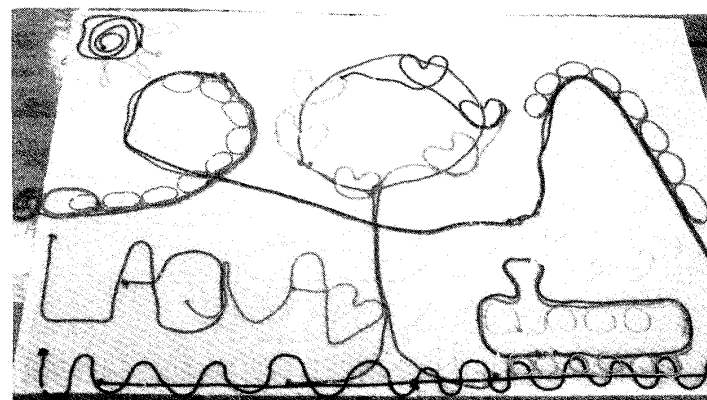
2-ア

大きくて夢のある建物を中心に乗り物や花火が表現され、楽しい雰囲気が伝わってくる。



2-イ

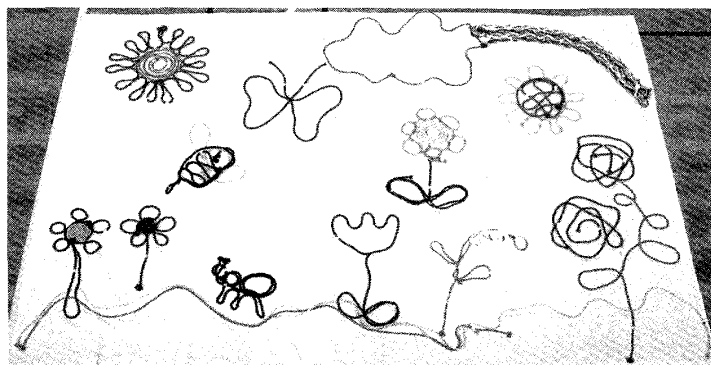
観覧車を中心に、ジェットコースターやコーヒークップがうまく表現できている。



2-ウ

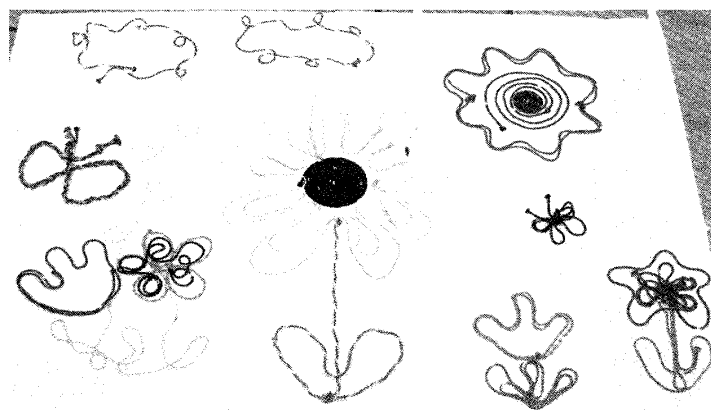
ハート型の乗り物やジェットコースターが楽しそうである。機関車の白い煙が目立たないため、黒と撚り合わせればもっと良くなる。

第3のテーマ：お花畑



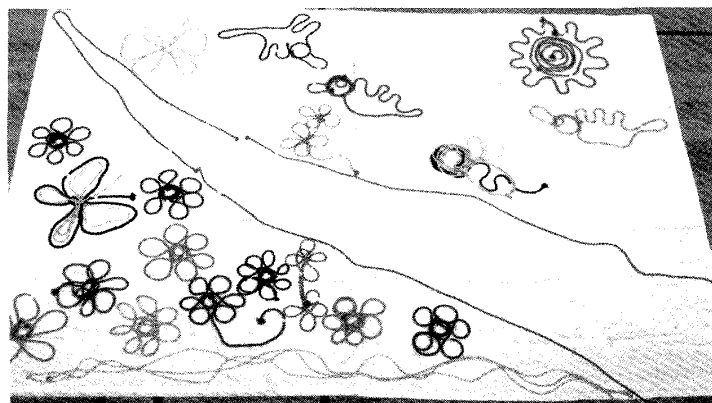
3-ア

全体にバランスの取れた作品で、複数のロープを撚り合わせて作った虹は傑作である。バラの花も見事に表現されているが、白いロープの使い方に一工夫欲しい。



3-イ

大きなひまわりを中心に置いた構図で、配置のバランスは良いが、花の種類や色を増やすと変化が出て良くなる。



3-ウ

清流を中央に描き、一方に種類のお花畑、対岸に鳥やミツバチ、太陽が描かれている。面白い構図であるが、鳥を減らし対岸にもう少し花を増やし、川の流れを白の淡色ではなく青と撚り合わせればはっきりする。鳥の描きかたに、もう少し工夫が欲しい。

Ⅲ 結果と考察

一本のロープで花や動物を表現することから始まり、最終的には白いシート2枚分をキャンバスに見立てて、遊園地・動物園・お花畑をグループごとに描かせた。想像したものをすぐに表現できる者とイメージ通りに表現できずに何回も描いては壊ししている者とがいた。ラインの描き方で完成度が相当変化するため、見回りながら、いかにシンプルなラインでそれらしく表現するか等のアドバイスを与えた。その結果、わずかの調整をただけでよい形に変化するものもあった。

ロープの使用方法としては、次の6通りが見られた。

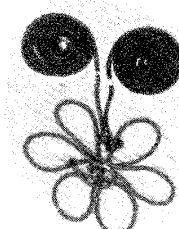
- ① そのまま使う
- ② 平面で渦巻き状にして使う
- ③ 立体で渦巻状にして使う
- ④ 二本をよじって使う
- ⑤ 複数本を編んで使う
- ⑥ 結び目を作って使う

以下の図は、これらの方法を使った例である。

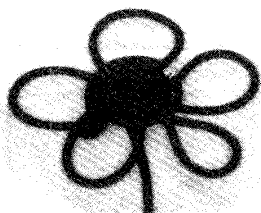
①



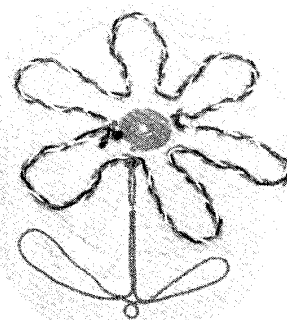
②



③



④



⑤



⑥



前記の方法を採り入れることにより平面的な絵が立体的で深みのある物に変化する。グループのそれぞれに創意工夫をしてよりよく見せようと一生懸命努力する場面が見られ、“皆で協力して一つの作品を作る”ことが達成されている。

一本で使用する時は一筆書きと同じようになり、前述したように、いかにシンプルなラインでそれらしく表現できるかが重要なポイントになる。複数本で使用する際も同じことが言えるが、特に一本の場合が難しいと判断される。作品の中には、今にも動き出しそうなりアルな描写や、ほのほのとした感じが伝わってくる姿が描かれているものもあり、保存しておきたいのは山々であるが、二度と同じ物を描くことが出来ないところが、ロープアートの潔さではないかとも考えられる。

しかし、完成した作品は全てカメラに収めてあるので、必要に応じてそれらを画面に再現し、教材化する上での参考にすることは可能である。

授業後の学生たちの感想として、次のようなものが挙げられた。

- ① 何を描くのか考えつくまでが難しかったが、実際にやってみると楽しかった。
- ② 一筆書きみたいで少し難しい部分もあったが、とても楽しかった。
- ③ 完成品をその場で見たのと、キャットウォーク（二階）から見たのではぜんぜん違うように見え、上から見たほうが感動した。
- ④ 初めは一本のロープを形にすることが難しかったが、それは固定概念があったからで、無心になり子どもになるとイメージが沸き楽しくなった。
- ⑤ ロープアートは少しのゆがみや置き方の違いで出来映えがまったく違う物になり、工夫次第で素晴らしい作品が出来た。
- ⑥ 発想力が大切だと思った。同じ物を描いていても一人ひとり違う表現になっていて、子どもたちの個性を伸ばしていくには最適の教材だと思った。
- ⑦ 同じテーマでも4つのグループが異なった表現をしていて、描いている時も、完成作品を見る時も楽しめた。
- ⑧ 白い紙に色鉛筆で描くのととはまったく違った面白さがあると思った。一本のロープという“線”を使って描くというのは思ったより難しく感じたが、そんな時は周りの皆がアイデアを出してくれ、一緒に描いている実感が沸いた。出来上がった全体を見た時の感動と達成感がとても気持ちよかった。
- ⑨ 一本のロープでも工夫次第で様々なものが描ける事に驚いた。数本を使って、グループで一つの作品を描くと、楽しそうな遊園地や動物園が出来、楽しかった。他の班の作品を見るとどれ一つ同じ物は無く、工夫されて個性が出ていると感じた。自分が保育者になった時、子どもたちにもやらせてあげたいと思った。
- ⑩ ロープアートの存在を知らなかったなので、どんなことをするのか分からなかった

が、とても楽しみにしていた。何を描こうか悩んだり、描く物が決まってもどのようにロープを使っていけばいいのか分からなかったりしたが、友達のやっている様子を見たり、何度も描いていくうちに形に出来るようになった。テーマごとに制作していく時は、自分の描いたものがその風景の一部になることが嬉しく、グループの皆と協力しながら出来て楽しかった。大人も子どもも夢中になって遊べるのだと思った。

以上10項目を抽出したが、ほとんどの学生が満足していることが窺える。感想の中には、

- ・初めの頃はつまらないと感じていたが、だんだんと一回限りで保存の効かない【絵】を描くことが、とても楽しく感じられるようになった。
- ・いろいろな長さのロープがあれば、もっと複雑な絵が描けるのではないか。

という意見もあった。

結果として、「ロープアート」は、想像力や発想力を高めるのに効果的な教材だと判断される。

IV おわりに

今年度初めて保育内容（健康）の授業に採り入れたロープアートであったが、時間を重ねる毎に学生が夢中になっていく様子がありありと感じられ、強い手応えがあった。

ロープアートの教材化の発端は、30数年前千葉大学で行われた夏季研修会で、故遠山喜一郎教授が研修時に単色のロープ(当時金物店で売られている物を縄跳び用に切った)を使って花を描かせたことにある。その研修には助手として参加し、他の内容は記憶に無いが、その活動は深く印象付けられた。しかし、教育の現場では普及することなく現在に至っている。おそらく授業に採り入れている所は本学のみではないかと推察される。

本稿をまとめるに当たって、本学の卒業生が受け持つ小学校のクラス（一年生）にロープを貸し出し、一時間試してもらったが、最初は予想したとおり形にならない結果になった。その後いろいろなアドバイスをしながら描かせると、ライオン・自動車と見た目に分かる絵を描くことが出来るようになった。子どもたちも大いに興味を示し、複数時間行かせたら、大人では思いも付かないユニークな絵が展開されるに違いないと感じられた。

学生たちの感想の中に、子どもたちにやらせてあげたいという意見が多数あったが、現状では無理であろう。何故ならば、一本の値段が高く、たくさんのロープを揃えるのが難しいと判断されるからである。今後、教材としてロープアートを普及させるためには、専用のロープで単価の安い物が得られるようになることが必要であるが、そうなるための努力は惜しまないつもりである。

参考文献

SASAKI 各年度の Rhythmic Gymnastics カタログ